



TITLE:

# 明代満蒙史料の刊行おわる

AUTHOR(S):

萩原, 淳平; 間野, 潜龍

---

CITATION:

萩原, 淳平 ...[et al]. 明代満蒙史料の刊行おわる. 東洋史研究 1959, 18(1): 38-38

ISSUE DATE:

1959-07-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/148135>

RIGHT:

## 明代滿蒙史料の刊行おわる

明代滿蒙史料(明實錄抄)は、皇明實錄の中から蒙古・滿洲民族に關する一切の記事、及び明朝の政治・經濟・軍事等にわたる對滿蒙政策についての關係史料をもあわせて抄録し、京都大學附屬圖書館所藏本をもとに、宮内廳書陵部本・上野圖書館本・東洋文庫本・梁鴻志影印本及びアメリカ國會圖書館藏舊北京京師圖書館本などを彼此對校し、補訂を加えたものである。

本史料の稿本は、昭和八年、三田村泰助・今西春秋兩氏が抄録に着手してから二十有餘年、その間幾多の曲折をへたが、昭和二十八年、ようやく田村實造教授が主唱して、京都大學文學部より繼續刊行することになった。しかも今回は田村・三田村兩氏を中心に筆者ら數人がこれに協力して、既成の稿本に大幅の訂正増補を加え、六年の歲月をついやして、本年三月、全十八冊を刊行しおえることができた。その上、最後には佐藤長、助教授の努力によつて、滿蒙と關係の深い西藏史料をも附すことになった。また同時に東京大學で並行して着手していた李朝實錄抄も、全十五冊を刊行しおえた。今これをふりかえてみた時、六年前に吾々の計畫していた冊數をはるかに突破して、十八冊にも増加し、しかも關連史料さえ入れることができて、全く感慨にたえないものがある。なお種々の事情で十分に補訂の及ばなかつた點もあるが、それは目下吾々が計畫している「明代滿蒙史研究篇」の中で、できるだけ補足したいと思う。ともかく全冊をおえたことは、編纂者一同のこの上もない喜びであるとともに、各方面よりいただいた厚意と助力に、深く感謝の意を表わしたい。因みに本史料の内容は次の通りである。

蒙古篇一	洪武 元年——永樂二十二年
蒙古篇二	永樂二十二年——正統六年
蒙古篇三	正統 七年——天順八年
蒙古篇四	天順 八年——弘治九年
蒙古篇五	弘治 十年——嘉靖九年
蒙古篇六	嘉靖 十年——嘉靖三十年
蒙古篇七	嘉靖三十一年——隆慶四年
蒙古篇八	隆慶 五年——萬曆十七年
蒙古篇九	萬曆十八年——萬曆四十二年
蒙古篇十	萬曆四十三年——天啓七年
西藏史料	洪武 二年——天啓七年
滿洲篇一	洪武 二年——宣德十年
滿洲篇二	正統 元年——成化二十三年
滿洲篇三	成化二十三年——萬曆六年
滿洲篇四	萬曆 七年——萬曆四十七年
滿洲篇五	萬曆四十七年——天啓二年
滿洲篇六	天啓 二年——天啓七年
蒙古篇	項目總索引
滿洲篇	項目總索引

(萩原淳平・間野潛龍)